

『唱歌と十字架』（音楽之友社、1993年）

『日韓唱歌の源流』
（音楽之友社、1999年）

§ 1 FM古都

みなさん今日は。FM古都「キャンパス不思議訪問」のパーソナリティ古庄孝子です。今日は奈良教育大学のキャンパスで安田寛教授の研究室を訪ねます。ここにはなだらかな丘に広がった緑の多い落ち着いた雰囲気のカンパスが広がっています。いかにも古都奈良に相応しいキャンパスです。

今日お訪ねする安田教授は音楽教育が専門の先生です。さて、どんな不思議な話が聞けるか楽しみます。では、さっそくお訪ねしてみましよう。

— どうも、安田先生、こんにちは。今日はよろしくお願ひします。

いえ、どういたしまして。こちらこそお訪ね下さりありがとうございます。

— はじめてお訪ねしましたが、とても落ち着いた環境ですね。

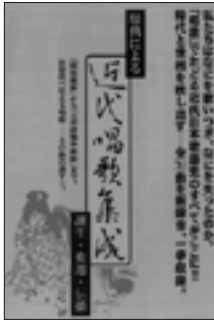
二階以上の建物が少ないからですかね。それがいいですね。よくは知りませんが高さ制限があるのかもしれない。

— さっそくですが、この番組は今大学で面白い研究をされている先生をお訪ねして、最新のご研究を高校生でも分かる程度に一般の方に分かりやすく紹介しようという番組ですので、今日はどうかよろしくお願ひします。

はい。でもそんな風に紹介されると大学の先生っていかにもつまらない研究をし

『唱歌という奇跡 十二の物語』
(文藝春秋、平成15年)

『原典による近代唱歌集成』宣伝用パンフレット
より(ビクターエンタテインメント株式会社)



ている人間だと世間からは思われているのでしょね。いえ、冗談です、こちらこそ、よろしくお願いします。

— いえ、そんなことは。でも、ご専門というのは素人には分かりにくいところがあるのはいかたないです。そんなところで、では、さっそくですが、先生は唱歌に関するご本を確か三冊出版なさっていらっしゃいますよね。それとビクターエンタテインメントの方から『原典による近代唱歌集成』というCD三十枚と楽譜集と解説書からなる唱歌全集をお出しになりました。先生のご専門は唱歌、あるいは唱歌の研究ということでしょうか。

はい、大学では音楽教育を広く教えていますが、専門に研究しているのは唱歌ですね。

— 私は音楽はあまり得意ではありませんので、とんちんかんな質問をするかもしれませんが、唱歌って、私も子どもの頃学校で歌った記憶がありますが、あの「故郷」とか「春の小川」とかの歌のことですよ。

はい、そんなものです。

§ 2 唱歌と童謡

— 私が最初にお聞きしたいと思った疑問は、唱歌と童謡はどう違うの、というこ



となのですが。

はつきり違うものですが、説明するとすると案外難しいですね。まず、生い立ちに違いがあります。唱歌というのは明治政府が学校で音楽の授業をする時に必要になった歌のことですが、これに対して大正時代になって、その唱歌が子どもの生活感とあまりにもかけ離れているといった批判から生まれた、新しく創作された子どもの歌が童謡です。ですから、最初は唱歌と童謡は対立関係にあり、学校では童謡を歌わせないようにして、歌うと叱られたようです。

——なるほど。童謡は学校で歌うと叱られる歌だったのですか。

そうですね。唱歌は反対にほめられる歌だったということですね。歴史的にはぜんぜん違うものですが、歌った感じで区別するのは、普通にはちよつと難しいと思います。「夕焼け小焼け」という歌がありますね。あれはどつちか分かりますか。

——さあ、どつちでしょう。童謡ですか？

はい、正解です。作曲者が童謡として作曲した歌だ、と知らなければ区別がつかないでしょうね。大正時代以降、唱歌も童謡も平行して作られますし、今歌われている唱歌はすべて童謡も作られていた時代に作られた唱歌ですね。ですから、研究者でなければ、あまり気になさらなくてよいと思いますし、必要な時は、事典かなにかで調べるか、専門家にお聞きになることですね。

——なるほど、専門家でなければ区別出来ない、ということですね。これで私もやっ

と安心しました。で、あらためて唱歌について簡単に説明していただけますか。

唱歌と言いますと、みなさんたいていご存知だと思いますが、さきほどの「故郷」「春の小川」の他に、よく知られているものといえば「おぼろ月夜」「われは海の子」「日の丸」といったところでしょうか、古い歌だし、今はもう作られていない昔の歌ですから、ふだん歌っているのは小学生たちですね。

あまりご覧になることはないと思いますが、「学習指導要領」というのがありまして、その音楽のところを見ると、一学年から六学年まで「歌唱共通教材」というのがあります。これは日本全国どの小学校でも必ず教えなければいけない必修の歌なんです。その中には先ほどの童謡「夕焼け小焼け」や江戸時代から伝わる日本古謡と言うのでしょうか、そういう歌もありますが、ほとんどは「唱歌」です。

—わかりました。唱歌は今日学校で必ず教えられる古い歌、ということですね。

はい、あと年配の方にとっては昔を思い出す懐かしい歌、どこか郷愁をおぼえる懐かしい歌、そういう歌だと思います。

§ 3 研究の面白さ

—確かに。老人ホームなんかでお年寄りが歌っている光景ですよ。でも、先生失礼かもしれませんが、素人の私たちには、そんな歌を研究して何が面白いんだろ



宣教師のお墓（左）とそれに刻まれた「And they sing a new song
（すると彼らは新しい歌をうたった）」（上）

う、と率直に思ってしまうのですが。

確かにおっしゃる通りです。でもまあ、研究というのは大抵そういうものだろうと思うんですけど、パツと見た時には今更研究するほどのものでもないという感じが起ころうと思うんですね。癌の特効薬の研究とかだと説明しなくてもその意義はすぐに分かってもらえますが、唱歌の研究ではそうもいきません。そういう意味ではとても地味な研究です。

まあ、それでも頑張ってる、力を込めて言えば（笑い）、唱歌は明治に生まれた新しい歌だし、学校教育で大きな働きをした歌であると同時に、明治から日本の音楽が、それまでのいわゆる日本の伝統音楽からしだいに西洋音楽に変わっていった時に大きな力を発揮した歌と考えられますので、少なくともその歴史は音楽教育の歴史にとっても重要ですし、日本の明治以降の音楽の歴史にとっても重要ですから、そういう意味では唱歌の歴史といったものを調べる価値はあると思うのですね。

——なるほど、唱歌の歴史を調べるといことですね。そしてその歴史は私たちの音楽の歴史にとって大事だと。

そうですね。唱歌の歴史が分からないと、私たちの音楽の歴史や、それと関係している音楽教育の歴史も分かりません。昔ですね、日本に来た宣教師が、日本人が讃美歌を歌うのを喜んで「すると彼らは新しい歌を歌った」と言いました。これは聖書にある言葉なのですが、讃美歌と同じように唱歌も明治になって日本人が歌いは

じめた新しい歌だったんです。

—それは先生の二冊目のご本『日韓唱歌の源流』の副題に使用されている言葉ですね。

そうなんです。この言葉が唱歌や讚美歌の歴史を考える時のキーワードになると思ったものですから。

§ 4 唱歌という奇跡

—ありがとうございます。唱歌についてだいぶイメージが出来上がってきましたが、実は今日は先生に特にお聞きしたいテーマを用意してきました。

え、何でしょう？ 怖いんですね。

—はい、怖いです（笑い）。これまでのお話は、はっきり言いまして、まあ常識と云いますか、少なくとも唱歌に少しくわしい人だったら普通に考えることだと思っております。その意味では、それほど不思議ではありません。でもこの番組の趣旨は「不思議発見」ですから。

私はたいして秘密のある人間ではありませんので、ご要望にお応え出来るか。

—いえ、研究者としては秘密があたりだと思います。実は、先生の三冊目のご本を読ませていただいて、とっても不満だったのです。